おくのほそ道

種の浜　―品詞分解―

十六日、空（ラ下二・用）霽れ（完・已）たれ（接助・順理）ば、ますほ（格助・体修）の小貝（ハ四・未）拾は（意・終）ん（格助・引用）と、種の浜（格助・帰着）に舟（格助・対象）を走す（サ下二・終）。海上七里（副助・例示）など（形動ナリ・用）細やかに（マ下二・未）したため（使・用）させ、僕あまた（副）舟に（格助・帰着）取り乗せ（ラ変・終）あり。天屋なにがし（格助・引用）と（ハ四・体）いふ者、破籠・小竹筒（接助・単接）て、追ひ風ときの（格助・体修）間に（格助・時間）吹き着き（カ四・用）ぬ。（係助・提示）浜は僅かなる（形動ナリ・体）海人の（格助・体修）小家にて（格助・状態）、侘しき（形シク・体）法花寺（ラ変・終）あり。ここ（代）に（格助・場所）茶を（格助・対象）飲み、酒を（格助・対象）温め（マ下二・用）て、（接助・単接）夕暮れの（格助・体修）寂しさ、感に（格助・対象）堪へ（ハ下二・用）たり。寂しさや（間助・詠嘆）須磨に（格助・対象）かち（タ四・用）たる浜の（格助・体修）秋の（格助・体修）波の間や（間助・詠嘆）小貝に（格助・対象）まじる（ラ四・体）萩の（格助・体修）塵を（代）そ（格助・体修）の日の（格助・体修）あらまし、等栽に（格助・対象）筆を（格助・対象）取ら（ラ四・未）せ（使・用）て（接助・単接）寺に（格助・場所）残す（サ四・終）。